

令和8年3月吉日
駒の学び舎
世田谷区立駒沢中学校
校長 和田 直樹

令和7年度の改善方策に基づく改善結果について

1 生徒・保護者ともに調査回答率の改善に向けた取組

生徒調査の回収率は、昨年度調査と比べ、11ポイント上昇(71.7%→82.7%)、保護者調査は、19ポイント上昇(68.0%→49.0%)、地域調査は、16ポイント上昇(70%→54%)した。

昨年度の回答率がすべての対象で低かったことを踏まえ、生徒調査においては、担任等の教員が調査回答の確実な履行を指導したこと、保護者調査においては、「すぐーる」を活用し、回答を促す通知を3回発出したこと、地域調査においては、行事や地域のイベント時において校長が挨拶する際に、調査回答を呼びかけたことなど、積極的に取り組んだ成果であると考えている。

2 家庭学習・課題に対して、生徒自身が自主的・積極的に取り組めるような対策

「私は、家庭で、宿題やQubena(e-ラーニング)などで学習している」という項目の肯定的評価が昨年度と比べ11.6ポイント減少した。家庭学習については、昨年度来の課題であったが、今年度の取組が成果につながることはなかった。その一つの要因として、昨年度末に実施したQubena研修を、今年度は実施することができなかったことにより、教師の積極的な実施につながらなかったこと。宿題の在り方の改善を模索する中で、家庭学習への定着につなげることができなかつたことがあげられる。こうした課題を踏まえ、生徒が家庭においても主体的に学びに向かう力をつけることができるよう、宿題の在り方の改善や教育相談におけるキャリア・パスポートの活用により、学びに向かう態度の育成を図っていく。

3 学校公開などを用いて保護者が普段の授業の様子を知る機会がさらに持てる

学校ホームページで、普段の授業の様子の掲載を毎日実施した。また、学校、学年、学級だよりを通して、積極的に学校生活についての様子を広報した。

その結果、保護者アンケートにおいて、学習指導に関する項目では、「わからない」との回答が5.6ポイント減少したほか、「子供の進路や将来のことについて考える授業がある。」の肯定的回答が3.5ポイント上昇する等、一定の成果が見られた。

しかし、学校公開などの保護者参加人数は横ばいに留まっていることから、生徒の活躍を含め学校の取組を一層発信していく。